



ハイナイト祈禱課題 2026年4月号

1. 国家存亡の戦いの中で

イスラエルは建国以来、国の存亡をかけた戦いを強いられてきました。それは、イスラエル消滅を願う者たちとの戦いです。中でもイランの強硬イスラム政権は、長年ガザ、レバノン、シリア、イラク、イエメンのテロ組織を支援し、イスラエルを包囲して、攻撃を続けてきました。

1979年のイスラム革命以来、イランの指導者たちは「アメリカに死を！イスラエルに死を！」と公言し、反米・反イスラエルを掲げてきました。そして、イスラエル絶滅とイスラム革命を世界に広げることが国是としています。あのハマスによる大規模テロも、イランによる資金と武器の供与、テロリストの訓練の下で実行されました

最大の懸念は、イランが急速に進める核兵器開発でした。核爆弾11個分に相当するとされる量のウラン濃縮が進む中、2月末、アメリカとイランの核協議は決裂。外交的解決の道は遠のきました。脅威が迫る中、イスラエルとアメリカは2月28日、先制攻撃に踏み切ったのです。この攻撃により、最高指導者のハメネイを始め、政権と革命防衛隊の幹部らが殺害されました。3月21日現在、イスラエルとアメリカは軍事施設や政府関連施設を標的とした攻撃を続けています。

イランは、イスラエルや湾岸諸国に向けてミサイルやドローンを発射し、被害は、13カ国に及んでいます。イスラエルでは、テルアビブやベイト・シェメシュに弾道ミサイルが着弾するなど、3月20日までで少なくとも22人の犠牲者が出ています。弾道ミサイルは、ビルを破壊するほどの威力があります。さらに空中で小型爆弾が拡散するクラスター弾も使用されています。クラスター

弾は、広範囲に飛び散るため、迎撃が難しく、これによる犠牲者も出ています。さらにヒズボラも参戦し、3月11日には、一晩で200発のロケット弾がイスラエル北部を襲いました。

一方、イラン国民にとって、この戦いは、長年にわたる独裁政権からの解放の希望となっています。1月には、反政府デモに参加者した数万人とも言われる市民が政権によって殺害されたばかりでした。その間、政権はインターネットを遮断し、言わば密室で自国民を弾圧していたのです。ハメネイ殺害の日、多くのイラン国民が通りに出て、自由と解放への期待を持って、躍りながら喜びました。こうした国民への弾圧は、激しさを増していくことでしょう。国内のイラン人は命懸けで解放を訴えています。

イスラエルは今、国の存亡をかけた戦いの中にいます。この戦争が終わっても、イスラエルを消滅させようとする者たちは後を絶たないでしょう。主がイスラエルを守り、戦争の中で苦しむイスラエル、イラン、周辺諸国すべての人々にあわれみを注いでくださるよう、祈り続けましょう。



イランの弾道ミサイルが着弾したアラドの町
Photo by Bridgesforpeace.com

直ぐな人たちのために 光は闇の中に輝き昇る。主は情け深く あわれみ深く 正しくあられる。

(詩篇112:4)

- ① 絶え間ない戦いを強られるイスラエルの人々の心と体が、主の平安で満たされ、守られるように。
- ② イランの核の脅威が取り除かれ、戦争の拡大がとどめられるように。
- ③ 長年、独裁政権の下で苦しんできたイランの人々に、真の自由と希望、主の救いが与えられるように。

2. ルツのようにイスラエルを支えていけるように

「ルツのように～神の愛に生きる～」。これはB.F.P. Japanの今年のビジョンです。まさに今、ルツのような生き方が私たちに求められています。

ルツは、神の集会から排除されたモアブ人でした(申命23:3～6参照)。しかし、イスラエルの神を自分の神とし、イスラエルの民を自分の民と

することで、イスラエルの民に加えられ、キリストの系譜に連なる者とされました。異邦人のやめめという厳しい境遇にありながら、ルツの決心は最後まで揺らぎませんでした。それは、神がイスラエルと結ばれた永遠の契約を胸に刻んでいたからです。そのルツの家系からお生まれになったの

が、主イエスです。

反ユダヤ主義が高まる現代の私たちも、イスラエルと共に立つ時、強い風当たりを経験します。偏向報道に感情が揺さぶられ、反ユダヤ主義に憤りを覚えます。

けれども、神の願いは、私たちが裁き合うのではなく、ルツのようにイスラエルを愛し、とりなすことです。私たちがルツのようにイスラエルを支える時、この日本にも神の栄光が現わされると信じます。共に祈ってまいりましょう。

「……あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です。」(ルツ1:16)

- ①日本人クリスチャンが、いかなる時代にあってもルツのようにイスラエルを支え、とりなしていけるように。
- ②反ユダヤ主義に傾く人々に、イスラエルを愛する心が与えられるように。
- ③私たちがイスラエルを祝福することを通して、この日本にも主の栄光が現わされるように。

3. キッズプログラムの町、 Beit She'an を覚えて

イランとの戦闘開始以降、一回の攻撃として最も多くの死者が出たのが、Beit She'an です。Beit She'an は、キッズプログラム発祥の地でBFPが長年関係を築いてきた町です。支援を受ける子どもたち約200人が住んでいます。幸い、キッズプログラムで支援を受けている子どもたちは全員無事でした。しかし、その内の1組の兄弟、イタマルさんとアブラハムくんのお母さんとおばあさんが犠牲になりました。お母さんのロニットさん、おばあさんのサラさんです。

イスラエルでは、「シヴァ」という7日間の喪の期間を持ちます。このシヴァに参加した岸本麗美さんの報告からお分かちします。

「シヴァで親戚の方々から聞いたお話です。ロニットさんが、サラさんをシェルターに避難させようとしている時に、ミサイルが着弾したそうで

す。サラさんの兄弟のニシムさんは、レスキューチームの一員です。町の救助活動の後、向かった現場がサラさんの家でした。奇しくも第一発見者となってしまったのです。『私は1時間前までそこにいました』と語ってくださった彼の表情、目の奥に見える心の切実な痛みに、私たちも言葉を失い、胸が張り裂ける思いでした。私はあまりにも悲しい出来事に泣いてしまいました。

イタマルさんとアブラハムくんの親戚たちが、彼らの今後を慎重に考えています。フードバンク長のダニエルは、『必要な支援があったら教えてほしい』と伝えました。親戚の一人が、私たちに、『どのようにBFPでボランティアをすることになったの?』と尋ねました。そこで、BFPはイスラエルを支援し、日本と世界中のクリスチャンがイスラエルと共に立っていることをお分かちすると、『そんなことは初めて聞き、とても励まされた』と涙を流しておられました。

これを書いている間にもサイレンが鳴り、今シェルターから戻ってきたところです。日本支部のお祈りやバックアップをひしひしと感じ、主の守りの中で主の働きを継続することができています」



Beit She'anでの犠牲者 サラさん(左)・ロニットさん(右)
キッズ・プログラムの支援を受ける兄弟の祖母と母
Photo Courtesy

映像はこちら ▶▶▶



<https://youtu.be/X6YEFIIfCs>



「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。——あなたがたの神は仰せられる——」(イザヤ40:1)

- ①イタマルさんとアブラハムくんのご家族に主の慰めがあるように。
- ②彼ら兄弟たちに愛と支えが与えられ、将来に主の守りと導きがあるように。
- ③BFPがBeit She'anの町と学校に必要な支援を届け、共に歩み続けることができるように。



特定非営利活動法人 B.F.P. Japan (ブリッジス・フォー・ピース)

TEL: 03-5969-9656 FAX: 03-5969-9657 URL: www.bfpj.org

ハイナイトに関するお問い合わせ: chainight@bfpj.org